

「第1回 大村知事と語る会－男女共同参画社会の実現に向けて－」主な提言にかかる県の対応(平成24年7月16日開催)

| 主な提言のポイント | 県の対応 |
|---|--|
| 知事から働く女性に対してメッセージをいただければ励みになる。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成24年10月9日に開催した「2012あいち男女共同参画のつどい」の式典の中で、知事から女性が日本一元気に活躍する愛知をめざし、メッセージを発表しました。この「知事からのメッセージ～日本一女性が元気な愛知にしよう」を、県ホームページに掲載したほか、市町村などに送付しました。 |
| 子育てがひと段落して起業する際にバックアップして欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> あいち男女共同参画財団では、起業に役立つスキル取得のための講座として「ネイリスト養成セミナー」を開催していますが、平成25年度からは、これに加え新たに「ファイナンシャルプランナー養成セミナー(仮称)」の実施も予定しています。 |
| 起業セミナーなどを開催するに際し、母親でも参加しやすいように、託児付きとするなどして欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> あいち男女共同参画財団で開催しているセミナー、映画祭や女性のための就業・起業相談などは、原則すべて、子育て中の方にも来ていただけるよう、託児を行っています。 |
| 女性ならではの企画もできるため、もっと女性が活躍できる社会になると良い。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度は、男女共同参画を推進するための講演会や、企業の中堅女性社員を対象とした「次世代の女性管理職養成セミナー」を開催しました。セミナーは平成25年度も継続して実施していきます。 |
| 成功している女性の事例をPRすると、刺激になり、より元気な女性が増える。 | <ul style="list-style-type: none"> あいち男女共同参画財団が実施する「男女共同参画セミナー」において、キャリア女性やキャリア形成の専門家を講師に、女性が自分らしい働き方を見つけるためのセミナーなどを開催しており、平成25年度も継続して実施していきます。 |
| 県からの情報発信をどんどんして行って欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成25年4月に、仕事と生活の調和に取り組むファミリー・フレンドリー企業を紹介する専用ホームページをリニューアルし、引き続き情報発信に努めていきます。 あいち女性のチャレンジ応援サイト『愛チャレンジ』では、「働きたい」「起業したい」「キャリアアップしたい」ときに役立つ様々な情報をとりまとめて提供しています。 あいち男女共同参画財団では、男女共同参画に関する各種情報や財団で実施するイベント情報を、広報誌「ウィルプラス」、メールマガジン「ウィル・レター」及びホームページで情報発信しています。 |
| 子どもだけでなく父親自身も楽しめるイベントを行うことで父親達の参加が増え、イクメンを増やすことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> NPO等が行う子育て支援の取組を発信するホームページ「あい・こどもネット」の中で、様々な団体が実施する父親向けのイベントの情報を掲載しています。 あいち男女共同参画財団では、父親と子供が楽しく参加できる「パパと遊ぼう!子育てスキンシップ教室」を開催しており、平成25年度も継続して実施していきます。 |
| 多様な生き方を認め合う社会になって欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画が、女性だけでなく男性も含めたあらゆる立場や世代の人にとって必要であるという認識が広まるよう、啓発資料の作成やイラストなどを公募する「はがき1枚からの男女共同参画」の作品募集などを通して、引き続き広報・啓発に取り組んでいきます。 |
| 子供が病気の時社員を休ませられるように会社の意識を変えていくことが必要。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成24年1月に策定した「あいち仕事と生活の調和行动計画」において、「安心して子育て等ができる職場づくり」を目標の一つに掲げ、男性の育児休業や事業所内保育等の拡大など、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。 |
| 社員の家族の状況に応じた柔軟な勤務形態や社員へのサポートを積極的に行う会社が増えると良いと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎月19日の「子育て応援の日(はぐみんデー)」のキャンペーンソング「みんなではぐみん」及び「はぐみん☆絵かきうた」のカラオケ配信を、平成24年12月から開始しました。 |
| 託児をして働くことに対して、引け目を感じる場合がある。託児をするものと地域の人々みんなが助け合っていくような仕組みが必要。 | <ul style="list-style-type: none"> 市町村が行うファミリー・サポート・センター事業は、病児・病後児を預かってほしい方に預かっていただける方を紹介するなどしています。各センターの情報は、県の子育て支援ポータルサイト「あいち はぐみんネット」で紹介しています。ただし、病児・病後児の預かりができない市町村もありますので、詳細な情報はお住まいの市町村役場へお尋ねください。 |
| 病児保育については、地域で預かってもらえる人と母親をつなげる仕組みがあれば良い。 | |
| 子育てしている女性が働くとき、一番のネックは子供が病気の時預かってもらえる先が少ないこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 病児・病後児保育を行う施設へ運営費等の補助を行うほか、施設の拡充・運営について市町村からの相談に個別に対応するなど、今後も病児・病後児保育の推進に努めていきます。 |
| 母親が働きに出るときに子供を預けやすくするために、様々なニーズに応えられる保育所をたくさんできるようにして欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成12年3月の規制緩和で、株式会社やNPOも保育所の設置ができるようになったことを受け、保育所の運営費については、設置主体にかかわらず、株式会社やNPOに対しても、国、県、市町村から助成が行われています。 |